

令和5年度(2023年度)事業報告書

1. 概況

令和5年度に入り、日本社会は新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に変更されたが、当法人は変わらず感染対策を行いつつ事業運営を行った。しかし、院内での感染は部分的に発生し、それが原因か昨年度同様に入院患者数が大幅に減少した。その為一時的に財団新居浜病院は300名を切り、豊岡台病院は100名を切るまでとなった。令和4年度発生した補助金の未確定分や令和5年度の補助金による収益増、また、離職者が多く発生したことにより人件費が減少したが、事業収益が大きく減少した為、2期連続での黒字達成は出来ず、赤字決算となった。

2. 令和5年度事業計画に基づく事業活動の状況

当期における事業活動の状況は、概ね次のとおりである。

(1) 精神衛生の研究

①患者の治療・社会復帰に関する調査研究

医師をはじめ、看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が日常業務の中で、継続的に調査研究を実施している。

②精神衛生の統計ならびに一般財団法人新居浜精神衛生研究所紀要の発行

当法人既発行の紀要や、外部の紀要等の事例を元に、引き続き発行に向け準備を続けている。

③入院患者の考察に基づく院内看護研究発表会の開催

院内の研究発表会や勉強会等による研修・研究を通して、医療に関する研究考察・質的向上に努めた。また、院外の学会や研修会等に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しつつ、可能な限り参加するよう努めた。

看護部において、豊岡台病院は10回の勉強会を実施し、院内外の研修会等への参加は、財団新居浜病院では23回、豊岡台病院では23回の実績であった。

看護職員以外では、医師をはじめ、薬剤師等のコメディカル、その他の職員も院内外の研修会等に積極的に参加した。(財団新居浜病院 63回、豊岡台病院 35回)

(2) 精神病の予防に関する普及及び宣伝

医師、看護師をはじめとして、薬剤師・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・理学療法士・管理栄養士・臨床検査技師等は、院外の研究会・研修会・学会・勉強会・交流会等へ積極的に参加し、最新の医学研究の情報収集に努めるとともに、外部の関係機関や関係者と連携して、講演会・座談会・健康相談会等の開催及び講師の派遣を行い、患者家族及び一般の方々に、精神疾患に関する情報の提供や情報交換を行い、地域における精神疾患の予防に関する普及、宣伝に努めた。

(3) 附属病院の経営

財団新居浜病院及び豊岡台病院の経営を行い、地域社会が要請する医療の提供に努めている。

諸部門の強化充実を図るため、医療従事者の確保に努めているが、職員の採用には両院ともに引き続き苦慮している。

① 財団新居浜病院

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5月より5類感染症に位置づけが変更され、その後の医療提供体制について「限られた医療機関による特別な対応」から「幅広い医療機関による通常の対応」に移行された。このような状況により、今まで受けていた行政からの公費(補助金等)が廃止となった。院内感染の状況は、散発的ではあるが一部の病棟(7-2、7-5)で発生した。

令和4年度内に複数の病棟(7病棟)において院内クラスター(感染集団)が発生し、その罹患者総数は全体で163名を数え、併せて職員23名が罹患した。この影響から、5年度も引き続き入院患者数は301名(年度当初313名)まで減少した。また、同感染症の影響と思われる職員の退職が増え、病棟運営・スタッフ確保に苦慮した。

以上のように、入院患者が減少したこと、また看護職員の退職者が増加したことにより、看護基準上8病棟を維持することが困難となった。そのため、病棟再編を図るべく令和5年7月より1号館2階病棟を休止し、在職者への負担軽減を推し進めた。

なお、行政機関からの財政的支援(補助金)は以下の通りである。

【行政機関からの財政的支援(補助金)】

医療・福祉施設食材費高騰対策応援金	3,901千円
新型コロナウイルス感染症患者入院受入協力金	13,800千円
新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金(病床確保料)	75,162千円
愛媛県医療従事者応援手当補助金	1,628千円
オンライン資格確認等導入に必要となる端末購入等に係る補助金	1,399千円
合計	95,890千円

【入院】

(当初予算)	入院1日平均患者数	335人	医業収入	1,724,134千円
(実績)	〃	312人	〃	1,612,213千円
(前年度実績)	〃	324人	〃	1,751,623千円

【外来(訪問等含む)】

(当初予算)	外来1日平均患者数	81人	医業収入	221,190千円
(実績)	〃	70人	〃	206,175千円
(前年度実績)	〃	77人	〃	225,215千円

医業収入全体で、前年度実績と比べ年間160,942千円の減収、対当初予算と比べ年間126,936千円の減収となる。

② 豊岡台病院

令和5年5月8日に新型コロナウイルスが5類移行後、7月から8月にかけて最も恐れていた精神科病棟の集団感染が発生した。4階病棟と5階病棟がほぼ同時期に発生し、瞬く間に感染が広がり、病棟全体をレッドゾーンとして対応せざるを得ない状況となった。7月21日の感染発生から8月4日まで、累計32名の患者と14名の職員が感染しようやく終息することとなった。

さらに令和6年3月には、内科療養病棟でも集団感染が発生し、3月4日から11日にかけて延べ患者12名と職員7名が感染した。新型コロナウイルスの集団感染発生の影響で減少した入院患者数は以前の水準に回復することは難しく、終息後には看護職員等が退職するリスクが高いということは聞き及んでいたが、実際に入院患者数が100名程度まで減少し、その後現在に至るまで回復することなく推移し、令和6年3月にかけて看護職員等の退職が相次ぎ、かろうじて3つの病棟を維持したが、今後縮小することが確実となってきた。

なお、集団感染発生に係る空床補償他当年度分補助金は、6,591万円を計上している。このような状況下、入院患者数は期首から12名減少し、入院収益は対前年度比で3,830万円減少し、介護およびその他医業収益合計で1,273万円減少し、外来収益は229万円の微増であった。

医業収益は減少したが、新型コロナウイルス感染症軽症用治療薬を積極的に投与したことも影響し、医薬品費が388万円増加し材料費全体では278万円増加となった。

一方で人件費は職員減少により3,891万円減少し、昨年度に対して3,429万円改善している。

新規取得固定資産としては、3階・5階脱衣室改修及び2階浴室の前室改修工事550万円、4人用心電図モニター2台411万円、分包機330万円等、合計2,881万円を計上し、天井埋込型多機能簡易陰圧装置2台853万円については、新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関等設備整備事業費補助金を活用している。

(4) 看護専門学校の経営

令和5年度は新入生17名、2年生20名、3年生12名の合計49名(定員充足率67%)でスタートした。途中、1年生から退学者が5名、休学者が2名、2年生からは退学・休学者が3名ずつ出て、退学・休学者は合計13名(2022年度は合計4名)であった。退学・休学の理由は、4名が進路変更、4名が成績不振、4名が健康問題、1名が子育て支援の問題であった。結果、年度末には1年生が10名、2年生は14名、3年生12名の合計36名(定員充足率40%)となった。全国的に少子化と看護基礎教育の大学化に伴い、看護専門学校では、入学生の確保が年々厳しくなっており、本校でも令和3年度から入学生が20名を割っている状態であるが、令和6年度の入学生は26名の見込みである。

第113回の看護師国家試験の合格率は全国平均が過去10年間で最低の87.8%であったが、本校は前年度の95.2%(全国平均90.8%)を上回る、合格率100%を達成出来た。愛媛県東予地区の看護専門学校4校の中で、唯一本校だけが100%の合格率であった。そして、一般問題・状況設定問題の合格ボーダーラインが157点/250点のところ、本校の平均点(自己採点)は187点であった。今後も高い合格率を維持し、受験者から信頼される学校としてイメージアップを図るとともに、在生には個別性に合った指導をし、退学者を一人でも削減するようにしたい。

支出は、学生用パソコン20台を更新し、ホームページと「学校案内」を刷新した。

(5) 精神障害者の診療・治療

財団新居浜病院の入院診療の実績並びに診断の内容は、令和5年度末で301名の患者が在院しており、主な疾病別の患者数と平均在院日数は次のとおりである。

病名	人数 (人)	平均在院日数 (日)
統合失調症	190	3,967
躁うつ病	18	1,070
認知症	63	765
器質性精神障害	14	1,876
アルコール中毒	3	204
覚醒剤中毒	3	3,114
知的障害	5	1,479
発達障害	2	401
精神神経症	3	2,124

全体の疾病のうち、統合失調症が63.1%を占めている。

豊岡台病院では、延べ入院患者数は38,034人/年(対前年比△3,625人/年)、うち精神科病棟は28,947人/年(対前年比△2,286人/年)、内科療養病棟では、9,087人/年(対前年比△1,339人/年)となり、平均入院患者数は103.9人/日(対前年比△10.3人/日)と減少した。

外来の延患者数は16,346人/年(対前年比△1,813人/年)で、うち精神科は、9,104人/年(対前年比+238人/年)、整形外科・リハビリテーション科では7,519人/年(対前年比+1,353人/年)、眼科では1,776人/年(対前年比△461人/年)、内科では4,291人/年(対前年比△517人/年)、年間の1日平均患者数は55.0人/日(対前年比△6.3人/日)となり、入院外来共に患者数が減少した。

(6) 精神障害者の社会復帰の促進

財団新居浜病院、豊岡台病院ともに、医療社会事業科の精神保健福祉士が地域活動の中心的役割を果たしており、看護部ほかの協力を得て、院内外の患者及び家族との関係を密にした活動を行っている。

主な活動としては、懇談会・勉強会等の実施・デイケア新聞の発行・納涼夏祭り・クリスマス会等のレクリエーション活動の実施である。また、関係機関等との連絡会・交流会・学習会に積極的に参加し、コミュニケーションを深めることにより、精神障害者の医療、社会復帰等の支援に努めている。

(7) 居宅介護支援事業

愛媛県の介護保険の指定を受けて、要介護状態または要支援状態にある高齢者及びその介護者の居宅に関わる総合的な相談に応じ、サービスが適切に利用できるように適正な居宅介護支援サービスを提供している。

主な業務内容は次のとおりである。

- ①要介護・要支援認定等の申請について、申請の代行業務を行う。
- ②介護保険の説明、介護保険サービス利用についての相談等に応じる。
- ③利用者・家族の意向を聞いて介護サービス計画書の作成、担当者会議の開催、介護サービス事業所との連携を図り、サービスが適切に行えているか利用状況の把握を行う。
- ④毎月利用者の自宅を訪問し、利用者・その家族と会って毎月モニタリングを行う。
- ⑤必要に応じて介護サービス計画書の変更、必要なサービスの調整を行う。
- ⑥愛媛県、四国中央市で開催される研修会、勉強会、講演会等に参加し、介護支援専門員としての資質向上に努める。

居宅介護支援事業については、豊岡台病院において行ってきたが、スタッフの確保が困難となり、令和3年12月より休止せざるを得ない状況にある。

(8) その他必要な事業

国立学校法人愛媛大学への寄付について

今年度も、寄付の目的「脳と心の医学」の研究のために、令和5年5月10日に100万円の寄付を実行した。

3. 当法人の職員の状況は次のとおりである。(令和6年3月31日現在)

(人)

	財団新居浜	豊岡台	学校	計
医師	5	4		9
非常勤医師	4	7		11
看護師	94	29		123
教員			10	10
准看護師	24	10		34
看護補助者	20	17		37
作業療法士	7	3		10
精神保健福祉士	6	3		9
薬剤師	3	2		5
管理栄養士、栄養士	6	3		9
臨床心理士、心理士	3	1		4
臨床検査技師	3	1		4
診療放射線技師	1	1		2
理学療法士		2		2
調理作業員	24	7		31
事務職員	22	12	3	37
その他		1		1
計	222	103	13	338

(法人事務局は、財団新居浜病院に含む)

(前年より19人減)

以上